

## 授業テーマ：福祉 ～本時：みんなにとっての「困っている」ってどういう時？～

1. テーマ : 福祉～本時：みんなにとっての「困っている」ってどういう時？～

2. 本時の授業テーマ : みんなにとっての「困っている」ってどういう時？

3. 子どもの設定 : 4年1組（男子16名女子18名：うち、発達障害のうたがいの子3名）、  
横浜市泉区の小学校（郊外で、緑が多い）。横浜など、都会へ働きに行く保護者が多い。つまり、地域にはあまり多く働く場所がない。マンションなどは転勤族が多く住んでいるが、一軒家の多くは長い間住んでいる家が多い。公園などの公共施設は少ないが、緑が多く、虫の生息地もある。子どもたちはよく森などに遊びに行く。

子どもの実態 : 核家族の子どもが多い。子どもたちの仲はよいが、下級生が泣いていても見て見ぬふりをしたり、どうしていいかわからず通り過ぎてしまうことがある。障害のある方に触れる機会が少なく、手助けの仕方もわからない。「困っている人」を見た時にどう動いていいかわからない。

### 4. 教師の問題意識

子どもたちの生活圏には、あまり大きな駅などが近くにない。不特定多数の人がたくさんいる場所に行く機会や塾通いの子などが都会に比べると格段に少ない。家のまわりに障害者の方のための施設が無く、障害のある方に出会う機会が少ない。

また、子どもたちの家族構成として核家族の家庭（中には母子・父子家庭も見受けられる）が多く、お年寄りに触れる機会があまりない。また、保護者のご近所との人付き合いが、狭く深くの状態になっており、特定の間人間関係で成り立っているコミュニケーションのため、内と外での付き合い方が異なる。そのため、内輪に対しては言いたいことを言っても、外の者に対してはかまえてしまう傾向が子どもだけでなく、大人の中でも見られる。このために、困っている人がいても他人事となり、見知らぬ人などに声をかけるといったことが、出来ないでいる状態である。

例えば、学校内では、休み時間、廊下などですれ違った下級生が泣いていても見て見ぬふりとなったり、どうしていいかわからず通り過ぎてしまったりするという行動に出ている。また、困っている人に気付いていても、声かけの勇気が持てない姿を目にする。

### 5. 授業目的

「困っている」ということは、どういうことなのか、色々な人の視点から考え、困っている人に対して積極的に自分ができることをしようとする気持ちを育てる。また、全ての人にとって生活しやすい環境を作ることを目的としたユニバーサル・デザインについても学び、身近な知識のバリアフリーやユニバーサル・デザインに興味・関心を持てるようにする。

## 6. 達成目標

1. 困っているとはどういうことか、例を挙げて話し合うことができる。
2. 体験したことをグループで話し合ったり、発表したりすることができる。
3. 自分からユニバーサル・デザインを発見し、発表することができる。
4. 困っている人を見た時に、相手の立場に立って声をかけることができる。

## 7. 授業計画：授業目的を達成する為に必要な授業数と各授業の概要

### 授業計画

授業回数	テーマ	各授業での子供たちの具体的な達成目標
①	みんなにとっての「困っている」ってどういうとき？ どんな人が「困っている」？	自分の意見、考えを発表する。優先席からどんな人が困っていると思うか意見を出し合う。
2	社会、身の回りの工夫（点字など）	点字などの必要性を理解する。優先席のマークより、何故老人や妊婦などが優先されるかを話し合う。
3	ユニバーサル・デザインを知る	ユニバーサル・デザインを自分で発見できる。それを発表できる。
4	体験をする（1）	車いす、視覚、聴覚に障害のある方、老人体験などをグループごとに体験して、どういうことに困るのか、どういう時に補助したらよいかワークシートに考えをまとめる。
5	体験をする（2）	妊婦、松葉杖などを使って、グループごとに体験し、どういうことに困るのか、どういう時に補助すればいいのか、ワークシートに考えをまとめる。
6	前の時間に体験したことから	どういう補助の仕方がよかったか／悪かったかについて、グループの代表が、発表する。声かけがある場合とない場合の体験を通し、声かけがいかに重要かを指摘する。
7	声かけの大切さから日常へ	困っている人の基準は人それぞれ違うが、声をかけるという行動が大切であることを理解し、身近なところで声かけができるようになる。

本時の授業：上記の  1  の授業

**8. 本時の授業でのポイントや指導上の注意点：**

児童に、「自分が困っていることイコール他の人が困っている」という安易な考えで終わらず、他者との話し合いを通して、人それぞれの意見の違いを理解できるようにし、困っていきそうな人にまず一言声をかけてみる事が出来るように指導する。

人によって、色々な「困っている」場面や状況があることに他者と意見を交換する中で気づく事が出来る。その中で、努力をすれば自分で解決することが出来る場合と、努力をしても解決出来ない場合があることについて理解し、自分自身で解決出来ることについては自分で努力する、という自覚を持つようにする。

外見的なものだけでなく「目に見えない不自由」についても、子どもの身近な場면을例に考える事が出来るようにする。また、お互いに気づいたことを意見交換出来るように、多くの話し合いの場を作る。

**9. 授業方法：なぜ、その授業方法、教材などを選んだのか？**

班活動…一人で考えてはなかなか発表しづらいが、いつもの班で話し合い、自分の意見を出すことで班として意見を発表することが出来る。どういう困ったことがあるのか実際に考えてもらう。

**10. 本時の授業**

流れ	教師の指示内容	教師の動き	時間
導入	<p>みんなが学校で生活する時、「困っている」ってどんな時かな？ 例えば消しゴムをなくしちゃった、とか、体操服を忘れちゃった、とか。</p> <p>班で話し合ってください。(5班に分ける)</p> <p>班ごとに話し合ったことを発表します。(発表含め5分)</p> <p>確かに今みんなが発表してくれたことは、困ったことだね。</p> <p>じゃあ、今みんなが挙げてくれたことは自分で努力したらなんとかなるかな？ならないかな？(なる)</p> <p>そうだよね。なるよね。</p> <p>じゃあ、努力ではどうにもならない時ってどんな時だろう？</p> <p>例えばね、先生が、この前腕を怪我してしまって包帯をぐるぐる巻いていたんだ。その、包帯をぐるぐる巻いていた時、自転車置き場を通ったら、自転車をざあーっと倒してしまったの。自転車を起こそうと思ったのだけど怪我をしていたからすごく困ったんだ。これって、努力したらなんとかなることかな？(ならない)</p> <p>じゃあ、自分から見て、努力とかではどうすることもできないで困っている人ってどんな人かな？学校でもいいし、駅やスーパーなど、学校じゃないところでもいいから、「あの時、あの人が困っていたんじゃないかな？」と思ったことを、話し合ってください。</p> <p>班ごとに話し合ったことを発表します。(発表含め5分)</p>	<p>難しそうにしている時は例をもう少し加える。</p> <p>自転車置き場で自転車を倒しちゃった人、地図を持ってうろうろしている人など、例を提示する。</p>	15分
展開	<p>では、「困っている人」の為にあるもの、何がありますか？(初心者マーク、など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例示しておく(優先席)</li> <li>・画用紙配布</li> </ul>	5分

	<p>先生は、こういうものを見つけました！これ見たことある人！これは、「優先席」のマークですね。</p> <p>今から班で思いついたものを画用紙に描きます（手すり、初心者マークなど）。</p> <p>各班発表をお願いします。この班から代表の人どうぞ。</p> <p>一杯ありましたね。さっき、先生が見せた、優先席についてお勉強します。</p> <p>どういう人がかいてある？（杖をついた人、妊婦さん）</p> <p>そう、この人たちを助けているのが、優先席なのですね。</p> <p>ここに書いてある人。全員ぱっとみて「困っているだろうな、優先しなきゃ」、とわかる人たちですか？（わからない）</p> <p>そうだね。わからないよね。じゃあ、この絵の中でぱっと見てわからない人は誰かな？（妊婦、心臓にペースメーカー）</p> <p>そうだよね、そのように目に見えないで困っている人は沢山いるよね。例えば、「お腹が痛い人」、「頭が痛い人」なども困っている人だよ。</p> <p>では、この人たち以外に優先席に座ってもいいという人、いませんか？班で話し合ってください。</p> <p>班ごとに話し合ったことを発表します。（目の見えない人、耳が聞こえない人、など）</p> <p>「困っているという基準は人それぞれ違う」、とさっきお話ししました。</p> <p>だから、たとえ見えていても見えていなくても困っているかどうかはわからないんですね。</p>	<p>・優先席マーク、点字マークを撮った写真などを表示・提示。</p> <p>班をまわってみる。ヒントをあげる。</p>	<p>10分</p> <p>5分</p> <p>5分</p>
<p>まとめ</p>	<p>今日は、「人それぞれ困っている、という場面は違う」というお勉強をしました。例えばどういう時に困っていたっけ？ ○ ○～さん。</p> <p>なるほど。それって努力すればどうにかなるんだっけ？ならないんだっけ？（なる）そう、なるんだよね。</p> <p>じゃあ、努力ではどうにもならないで困っている人ってどういう人だっけ？○○さん。そうだね。</p> <p>じゃあこの人（優先席の例を挙げる）って目に見えるんだっけ？見えないんだっけ？（見える／見えない）</p> <p>じゃあそういう人を見たとき、まず何をしたらいいんだろう？（席を譲る、声をかける）</p> <p><b>【声をかける、が出た時】</b>・・・そうだよね、いきなり席を譲るんじゃなくてまずは声をかけることが大切なんだよね。</p> <p><b>【声をかける、が出なかった時】</b>・・・いきなり席を譲っているのかな？（反応）まずは、「声をかけること」が大切なんだ</p>		<p>10分</p>

	<p>よ。</p> <p>声をかける、ということが大切だということは覚えておいてね。</p> <p>では、次の時間は困っている人を助ける工夫、ものをもっと探してみましよう。</p> <p>では授業を終わります。</p>		
--	---	--	--

### 1 1. 評価：

- ・「困っている」という基準が人それぞれ違うことを理解して、グループで意見を出し合うことが出来る。
- ・ワークシートに自分の考え、グループの考えをまとめることが出来る。
- ・グループで考えを話したり、まとめたりすることができ、かつ前で発表することが出来る。
- ・困っている人を見た時に、相手の気持ちにたって声をかけることが出来る。

### 1 2. 参考資料

川内美彦(2001)「ユニバーサル・デザインーバリアフリーへの問」学芸出版社

鎌田達也、ハマダ・ルコラ(2005)「みちかなマークー発見する喜びが芽生える」ひかりのくに

全国特別支援学校長会(2008)「特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア 豊かでかけがえのない体験と得るために」ジアース教育新社

当山啓(2008)「点字・点訳基本入門ー点字に興味を持ったら、最初に読む一冊」産学社

中川 聡(2005)「ユニバーサルデザインの教科書」日経 BP 社

松井進(2003)「見えない目で生きるということ」明石書店

米内山明宏(2007)「早引き 手話ハンドブックー知りたいことがよくわかる」ナツメ社

# 優先席 Priority Seat

優先座  
우선석



1



2



3



4



5



6

この席を必要とされる方に、おゆずりください。

Please offer these seats when needed by other passengers.

優先座(優先석) 1. 杖を必要とする方 2. 脚に石膏を必要とする方 3. 幼児を必要とする方 4. 脚に石膏を必要とする方 5. 妊婦を必要とする方

JR東日本